

災害支援ナース活動報告書

報告者：`小島 圭太

所属施設：新潟県立燕労災病院

報告月日：令和 6年 1月 31日

活動日	1月15日(月) ~ 1月18日(木)
活動場所	施設名：珠洲市立 正院小学校
活動内容	<p>能登半島地震被害状況の多くが詳細不明であり、派遣前隊の活動状況の情報もなく、災害支援マニュアルや研修資料を参考に入念な事前準備を行った。</p> <p>1月15日、東京都看護協会2名、新潟県看護協会2名の計4名1チームで正院小学校に派遣となった。ライフラインは上下水道使用不可の給水有り、裏山崩落や体育館の雨漏りがあった。避難校舎自体も支柱や壁に亀裂があり、一部床が隆起しているような状況の中で活動した。</p> <p>避難者住民数約130人前後であり、約半数が要配慮者だが殆ど自立した方々であった。ただcovid-19陽性者数名と咳嗽や発熱などの有症状者が発生している状況であった。前隊による避難者マップなど避難住民情報を引き継ぎ、現地の状況・情報から災害支援ナースにおける継続看護として、災害関連死につながる異常の早期発見・対応と慢性疾患の増悪予防、そして災害亜急性期における感染症予防・蔓延防止と衛生管理、生活環境の整備に重点を置くことを目標として活動を行なった。</p> <p>健康チェックや夜間交代で相談対応から問題の芽を早期に発見し、早期対応につなげる活動を行なった。様々な外部支援との分野横断的な情報共有・連携がなかったため、前隊作成マップを空飛ぶ捜索医療団 ARROWS 木下 Ns、熊本市保健師チームと正院小学校災害対策本部との協働で更新し、避難者名簿に併せた看護カルテの作成も行なった。防災士、福井県職員そして被災者である地域住民の方々との協働により、生活空間の確保・改善、そして感染予防対策の一環として避難所用ルームテント設営と段ボールベッドの設置、気泡緩衝材による断熱を行なった。感染症蔓延防止対策として手洗い場を支援物資でDIYしたが、設置するには課題もあり至らなかった。その為、アルコールによる手指衛生の徹底を引き続き指導し、次亜塩素酸によるトイレを中心に環境整備を行なった。また食事も床に置いて摂取していたためテーブルの設置も行なった。</p>
所感	<p>避難所における看護師の役割は、避難している人の健康管理と維持、そして基本的な生活が送れるように支援することです。災害支援チームの皆で目標を共有し、議論し、多職種そして住民の方々と共に協働し問題解決に向け活動でき、大きな糧となりました。只、住民の方々に寄り添い、生活者の視点で支援活動をアセスメントし、実践及び再評価し、次隊に継続看護としてつなぐことができたのか悩み、支援を終えた今でも力不足で後悔の念が止みません。</p> <p>能力の限界を知ったことで、限界点を上げていくためにも、平時より生活者の視点での看護実践を意識的に学び実践すると共に、連携職種との関係構築を図り、次に繋げていきたいと思えます。</p> <p>派遣にあたり、日本看護協会関係各所、県看護協会、そして所属施設看護部の多大なる協力が有り、無事に活動を終えることができたことに深い感謝を申し上げます。</p>

新潟県看護協会 e-mail : saigai-shien@niigata-kango.com